

9/30 (木)

# 新潟日報

夕刊  
発行所 新潟日报社  
本社 〒950-1189 新潟市西区善久772-2  
第24363号

2010年(平成22年)

題字 會津 八一

「がんばって!」。日常よくかけられる言葉です。私は大阪生まれなので「よっしゃ!」と勇気がわくこともあります。

ゲレンデやフィールドですれ違ふ人々は、アタプティブ(障がい者)がスキーやアウトドアに取り組む姿を見て「がんばってください」と声をかけてくれます。ありがたいと思います。でも、私たちはゲストに対してほとんど使いません。なぜなら、ゲストはレジャーを楽しみに来ているからです。

## 晴 | 雨 | 計

だって、ゴルフに出かけるお父さんは、ご家族から「がんばって!」と声をかけられませんか? 賞品が素晴らしいコンペだと思いませんか。かえってプレッシャーになってスコアが…なんてことになるかも。

ところがアタプティブとなると、途端になんでも「がんばって!」になってしまいます。子供の場合、周りから「がんばれ、がんばれ!」と言われ続けるから、やがて、なんでもかんでも「がんばります!」と言ってしまうようになります。こちらが「何をがんばるの?」と尋ねても、答えられない場面さえあります。

がんばる姿しか評価されなければ、褒めてほしい子供たちはがんばります。た

## がんばらない

と身体的・精神的に困難であっても、これって本当にその子にとって良いことなのかなあと時々疑問を感じてしまいます。

世の中、みんな何かをがんばっていると思います。アタプティブはさらに、健常者より社会生活に適応するため、多くの工夫や努力が必要とされることが多いのです。

がんばったご褒美の一つがレジャーで



す。せっかく遊びにきても、また「がんばれ!」と言われたら、どこで息抜きするのでしよう。特に初めてやってきたアタプティブの場合は、未経験のことに挑戦しようと勇気をもって一步を踏み出してきてくれていて、すでに十分にがんばっているのですから。

私たちは「がんばらなくていいから、楽しもうよ」と言います。「がんばる」のはゲストではなく、私たちスタッフです。